

## 会 議 録

会議の名称	平成 28 年度第 1 回茨木市環境審議会地球温暖化対策推進部会
開催日時	平成 28 年 8 月 9 日 (火) (午前・午後) 10 時 00 分 開会 (午前・午後) 11 時 30 分 閉会
開催場所	市役所本館 3 階 第 2 会議室
議 長	玉井昌宏 (大阪大学大学院 准教授)
出席者	久米 辰雄、天保 好博、三輪 信哉
欠席者	三上 雅弘
事務局職員	松山環境政策課長、谷口推進係長、細井職員、嶋職員 【4人】
開催形態	公開
議題 (案件)	(1) 平成 27 年度地球温暖化対策実行計画の進捗状況について (2) その他 (事務局より報告)
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・名簿</li> <li>・平成 27 年度の進捗状況について・・・資料 1</li> <li>・平成 27 年度いばらきエコプラットホームのまとめ・・・資料 2</li> <li>・エコランプリいばらき 2016 チラシ・・・資料 3</li> </ul>

## 議 事 の 経 過

発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
部会長	<p>&lt;開会&gt; 事務局より挨拶</p> <p>本日、三上委員は欠席と伺っている。活発にご意見をいただければと思う。また、傍聴者はなしとのことである。会議次第に沿って進めていく。今回は事務局からの報告が主となっている。では、事務局から説明をお願いします。</p>
部会長	<p>&lt;議題&gt; (1) 平成 27 年度地球温暖化対策実行計画の進捗状況について事務局から説明</p> <p>以上について、何か質問や意見はないか。</p>
A委員	<p>地球温暖化対策実行計画の目標達成は現状から考えると難しいのではないかと。産業用部門でいうと製造品出荷額百万円あたりのエネルギー消費量は増えているし、唯一減っているのは民生業務部門で、それ以外はどちらかというところが増えている。目標達成を目指すため、市民に対して広報誌で省エネのPRをするなど、お金をかけずにできることはある。事業者では、例えば運送業者に市内を走るものは環境配慮車を優先導入するよう求めている市もある。茨木市は水素ステーションや天然ガスステーションが整備されており、インフラ環境においてもよい環境にある。市が省エネ行動に結びつけるアクションを考えればそれをきっかけに広がっていくと思う。</p>
事務局	<p>省エネコンテストなどを通じてPRしていきたいと考えている。予算がなくてもできることなど、参考にしたい。</p>
部会長	<p>6 ページに「事業所訪問、啓発冊子・副読本の発行」とあるが、そのような機会は活用していないのか。</p>
事務局	<p>そちらは資源循環課の担当で、多量排出事業者へのごみの減量・分別の指導ために行っているものである。</p>
部会長	<p>併せて省エネ関連のPRなどを配布することができれば良いと思う。</p>
事務局	<p>参考にしたい。</p>
B委員	<p>4 ページの運輸部門のCO<sub>2</sub>排出量とエネルギー消費量はどのようにして計算しているのか。</p>

## 議 事 の 経 過

発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	国の統計データを茨木市の保有台数で按分し、製造品出荷額百万円あたりで計算している。
B委員	茨木市の場合、運輸ステーションが増えており、保有台数は増えないが、集合する台数は増えていく。そうすると現状を反映しない数字が並ぶように感じる。
事務局	国が示す算出方法に沿って、近い値を出すようにしているが、どの部門においても茨木市の数字を正確に捉えるのは難しい。
C委員	最終的な目標値は、CO <sub>2</sub> 排出量ベースで書かれているがエネルギー消費量ベースとでは結果が違ってくる。エネルギー消費量では目標に近づいてきたが、CO <sub>2</sub> 排出量だと達成できないというふたつの結果がでてくるが市民にどう発信していくのか。
事務局	他市では排出係数を固定するなどしている。最終的なとりまとめ方は今後考えていかなければならないが、何かアドバイスがあればいただきたい。
部会長	エネルギー消費量かCO <sub>2</sub> 排出量かは地球温暖化対策実行計画を立てる当初から議論になっていた。基本的にはエネルギー消費量でよいが、その中身が大事である。産業が減ったからエネルギー消費量が減ったということでは意味がない。
A委員	4ページの廃棄物部門を見ると茨木市の取り組みの効果がある程度出ているように思う。廃棄物では事業系・家庭系どちらも減っている。ごみの分別や減量の意識が根付いてきているのではないかと。指標を活用しながら、エネルギー消費が増えている部分を特に意識して減らしてくださいというPRに努め、減っている部分はさらに減るようにPRする。さらに頑張りましょうという雰囲気を市全体でつくっていく。
C委員	5ページのエコオフィスプランいばらきの基準年と目標値が書いてあるが、それぞれの基準年度にばらつきがあり理解しにくい。平成2年度値が横に添えてあれば理解しやすいのではないかと。
B委員	CO <sub>2</sub> 排出量の削減努力の話ばかり出てくるが、茨木市の特徴として北部に豊富な森林面積を持ち、意外と若い林が多いので、CO <sub>2</sub> を吸収する力が大きいのではないかと。排出量削減だけでなく、吸収量増加努力も併せて考えるべきだと思う。ただ北部の開発で森林が10年前に比べてかなり減

## 議 事 の 経 過

発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
部会長	<p>っている。そのあたりは市民にも知らせていくべきではないか。安威川ダムや新名神・彩都の開発の影響を受けて吸収量は減っている。まちで排出量を減らしても市全体で吸収量が減っているということはあるのではないか。</p> <p>国の政策の中では森林管理はCO<sub>2</sub>換算に入っているが、茨木市でそれを行う可能性はあるのか。</p>
事務局	<p>地球温暖化対策実行計画の策定時に正確な数値を毎年把握するのは難しいという話になった。それ以降は検討していないので、今のところそういった考えはない。</p>
A委員	<p>吸収量の評価は難しいが、森林保全について市民に興味を持ってもらうことは非常に重要である。COP21では森林保全がCO<sub>2</sub>排出量の削減に寄与するスキームになるので、茨木市民が森林保全に取り組んでいる姿勢は大事にし、育てていかなければならない。</p>
C委員	<p>取り組みとCO<sub>2</sub>削減をどのようにリンクさせるかが問題である。森林マイスターが増えてもCO<sub>2</sub>削減はされないのではないか。</p>
A委員	<p>CO<sub>2</sub>削減に貢献まではいかなくても意識付けが大事ではないか。</p>
B委員	<p>若い林の方がCO<sub>2</sub>を吸収する。ダムや道路の開発では利用する場所以上に切り開くため、新しい林をつくる場所ができることになる。そこに植林をすることで一番CO<sub>2</sub>吸収量の大きい若い林を増やす余地がある。</p>
A委員	<p>吸収量の計算は難しい。針葉樹と広葉樹、若木と老木で吸収量が違うので評価が難しい。</p>
C委員	<p>9ページのEV・PV・PHVは言葉の解説が必要ではないか。10ページの活動指標の状況で実際全ての照明をLEDに変えるとどのくらいCO<sub>2</sub>が減るのか、全体の何%LED化したのか知りたい。11ページに環境家計簿普及促進事業の参加者数とあるが、実際環境家計簿をつけている人はどれくらいいるのか。</p>
事務局	<p>EV等は注釈をつける。街路灯のLED化については確認する。環境家計簿をつけて市に提出してくれる方は少ないため実際につけている人数を正確には把握できない。</p>

## 議 事 の 経 過

発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
C委員	同じく 11 ページに環境ボランティア活動者数とあるが、実際環境教育ボランティアとして登録されている人は年々増えているのか。
事務局	増えている。
C委員	今年これをしたという年次評価の一覧があればわかりやすい。
事務局	一覧表を入れます。
部会長	他に質問等が特になければ地球温暖化対策実行計画の報告案件は終わり、資料 2、3 について事務局より説明をお願いします。
部会長	(2) その他 (平成 27 年度のいばらきエコプラットホーム及びエコグランプリいばらき 2016) について報告
部会長	質問、意見があればお願いします。
部会長	部会とエコプラットホームの関係を教えてほしい。
事務局	まず、この部会で地球温暖化対策実行計画の進捗管理を行っていく。一方、計画推進に欠かせない市民や事業者の方との情報交換の場としてプラットホームを活用している。部会に対してはプラットホームの実施報告のみをしている。
部会長	プラットホームの活動が資料 1 に入らないのはなぜなのか。資料 1 に入らないということが関係性がわからない原因になっている。
事務局	プラットホームは、計画推進のための仕組みであるため、資料 1 に入れることを検討する。
B委員	プラットホームという言葉はかわりにくい。ホームページにあってもタイトルの時点で敬遠してしまう。説明文を入れるか名称を変えてみてはどうか。
事務局	地球温暖化対策実行計画策定時にプラットホームという言葉が出てきてそのまま引き継いでいる。当時はワークショップという表現も考えていたが、ワークショップは計画を策定するための単発的なものというイメージがあり、コンサルタント会社からの提案もあってこの名称になった。もう少し分かりやすく説明をつけたいと思う。

## 議 事 の 経 過

発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
B委員	プラットフォームの報告書類は、誰に向けた資料なのかわかりにくい。
事務局	議事録的なものではあるが、ホームページでも公開しているため、参加者だけではなく市民が見ても分かりやすいものにしたい。
部会長	市内の事業者に協力を求める場としてプラットフォームを活用するのは難しいのか。
事務局	無償で来てもらっているのではなかなか難しい。エネルギー会社や環境団体の方など興味のある方しか来ていただけないというのが現状である。
A委員	エコランプリの対象に個人・家族・グループ・事業者・市民活動団体・学校等とあるがそれぞれに賞をつくってはどうか。3つしか賞がないとたくさんの方が応募しようというインセンティブにはならない。
B委員	参加賞よりも表彰状を増やす方が動機付けに有効なら、参加賞に使っているお金を表彰にまわしてみてもどうか。
部会長	毎年市内の企業に大学生を連れて環境活動について説明してもらっている。小中学生でも行けるのではないか。
A委員	今はどこの企業も環境保全に取り組まざるを得ない状況にある。それをより地元密着型の活動にしてみてもどうか。
C委員	どの企業でどのようなメニューができるか一覧になっていれば学校も利用しやすいのではないか。
部会長	一度そのような形で企業にアンケート調査をとってみてもどうか。反応が良ければ今後もつながっていくと思う。
部会長	他に何か意見等はあるか。無いようなのでこれで閉会する。
	<閉会>